

【募集】第90回民族学研修の旅

インドネシア、ニアス島とスマトラ島北部の住まいを訪ねる

講師：佐藤 浩司（民博准教授）

期間：2018年3月10日（土）～18日（日）【9日間】

申込締切日：2018年1月31日（水）

参加費：458,000円（他空港使用料等諸経費がかかります）

募集人数：25名（最少催行人数15名）〈先着順〉

※正会員、もしくは体験会員にご登録いただくことで、一般の方もご参加いただけます。

※民泊では寝袋の貸出やホテル宿泊のご希望もうけたまわります。



一万を超える島々からなり、日本の約五倍の面積の国土をもつインドネシア。二〇〇以上の民族が暮らすこの国では、島ごと、民族ごとに異なる個性豊かな木造家屋が生み出されてきました。インドネシアの家屋や集落には、配置や方位、装飾やシンボリックな形状などに、人びとの世界観を見ることが出来ます。第九〇回民族学研修の旅ではインドネシアの住まいに注目して、ニアス島とスマトラ島北部をめぐるります。

スマトラ島の沖合約一四〇キロメートルのインド洋に浮かぶニアス島。集落景観は島の北部と南部で大きく異なります。北部では楕円形の家屋が数棟単位で建ち並ぶ一方、南部では、高さ二〇メートルに達する木造建築「オモ・セブア（首長の家）」を中心に、石畳の広場をもつ巨大な集落景観が広がります。広場を挟んで一〇〇棟以上の慣習家屋が触れ合っている船のように並ぶ姿はまさに圧巻。そして、これらの家屋には隣り合う家屋同士をつなぐ扉があり、集落全体を通して屋内を行き来できるような

構造になっています。

スマトラ島では世界最大のカルデラ湖・トバ湖に浮かぶサモシル島のトバ・バタック人の集落を訪ねます。近郊にあるカロ・バタック人のドカン村では、一棟に八家族が暮らす慣習家屋にお邪魔します。カロ人の、この巨大な家屋はいまや五棟を残すのみ。現在は本来の持ち主が新しい家に移り住み、貸家として利用することで維持されています。

家の住み手や作り手が途絶え、もしくは文化財として保護する目的ばかりが先行して住民が不在となる伝統家屋は各地にたくさんあります。一方で、今回訪問するニアス島やスマトラ島北部の家屋は、実際に人びとがそこで生活を営んでいるまさしく「住まい」です。今回の旅では、集落をめぐって家々を訪ね歩き、そこに住む人びとの暮らしを肌で感じます。

南ニアスのバウオマタルオ村では民泊も実施予定。もちろん各地の資料館を見学し、ニアスやバタック人の石の文化に触れる時間をご用意しました。みなさんぜひご参加ください。

上）南ニアス、バウオマタルオ村にて。サゴヤシの屋根を葺き替える。斜向かいに首長の家を遠望
中央）北ニアス、シワヒリ村。床下の斜材は耐震構造なのか？
下）スマトラ島、ドカン村。4箇所ある囲炉裏を挟んで8家族が暮らす（以上、提供・佐藤浩司）

※ 詳細は同封の募集要項（チラシ）をご参照ください。旅行のお問い合わせ・お申し込みは、友の会事務局もしくは西遊旅行まで！

旅の参考にご利用ください

●佐藤先生個人ホームページ「建築人類学者の眼」

インドネシア各地の家について、調査をもとに紹介しています。もちろん旅行の訪問先についても！

<http://www.sumai.org/>

●みんなの映像番組

取材先はスンバ島ですが、住まいと人との向き合い方を知る参考に。館内ビデオテープブースでご覧いただけます。

「マラブの家」「スンバ島の家を建てる」

「インドネシア・スンバ島の家」

ニアス島をもっと身近に！関連催しのご案内

同行講師の佐藤先生が、東京と大阪でニアス島についてお話しします。ニアス島が伝統的集落を維持し続けられる理由にせまります。

巨石の島に生きる

—— インドネシア・ニアス島の家屋と集落

■東京

日時：11月23日（木・祝）13:30～14:40
会場：モンベル御徒町店4Fサロン

■大阪

日時：12月2日（土）13:30～14:40
会場：みんな本館 第5セミナー室

※詳細は5頁をご覧ください。